

循環型社会構築に向けた新日鉄の情報発信

「お寺のチタン屋根」：2003年度「グッドデザイン賞」受賞

新日鉄の「お寺のチタン屋根」が2003年度「グッドデザイン賞」((財)日本産業デザイン振興会主催)を受賞した。これは、当社が数寄屋研究所心傳庵 木下孝一棟梁(京都府京田辺市) 光悦寺 山下智昭住職(京都市北区)と共同で出品した。「お寺を守るチタン屋根のコンセプト」が、新領域デザインとして評価された。

数百年の歴史あるお寺では、一度雨漏りを起こすと建物の寿命が一気に縮むため、これまでも定期的に屋根の葺き替えが行われてきた。伝統的な屋根素材の柿(こけら)や檜皮(ひわだ) 瓦に代わる銅葺き屋根も、酸性雨などで本来の寿命(80年)が使用条件によっては十数年まで短くなり、問題が生じてきた。

光悦寺の山下住職は、「お寺を確実に保護し、未永く後世に伝えたい」との思いで「現代における最良の素材」としてチタンを採用。木下棟梁は「300年の耐久性と無害・生体適合性の高いチタン」を、「現代最高の屋根材」として提案。当社は「加工性」「いぶし瓦に似た風合い」等の数寄屋大工棟梁の厳しい要求に応え、実現した。

これまで、一休寺(京都府)をはじめとする多くのお寺で採用され、最近では金閣寺の茶室にも採用されるなど、日本建築物の伝統美の世界でも認知されつつある。今後、建材分野においても、「現代における最高の素材」としてのチタン適用拡大に努めていく。

エコプロダクツ展2003(下記)にも出展予定だ。



光悦寺本堂のチタン屋根

第11回「地球環境経済人サミット」で、新日鉄の関沢常務がパネリストに

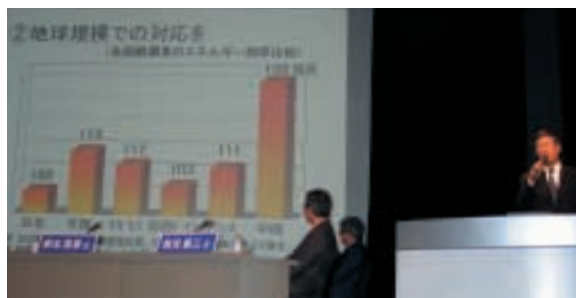
第11回「地球環境経済人サミット」(主催：日本経済新聞社 後援：環境省、外務省、経済産業省)のセッション「温暖化対策と企業経営」で、当社の関沢秀哲常務がパネリストの一人として講演した。

関沢常務は、まず日本の最終エネルギー消費量の約11%を占める鉄鋼産業は、これまで温暖化対策に自主的に取り組み、大きな成果を挙げていることを説明。また、新日鉄が鉄鋼業で培ってきた技術、ノウハウ、既存設備を活用し、オンサイトエネルギー供給システムや、風力発電、水素エネルギープロジェクトなどの環境・エネルギーソリューション事業を積極的に展開していることなどを述べた。

環境税については、「地球温暖化問題は世界共通の課題。環境税は企業の国際競争力や雇用問題に大きな打撃を与え、『環境と経済の両立』に逆行する。他国への生産移転

はかえって地球規模の温暖化防止に逆行する。『環境税ありき』の議論だけが先行している」と見解を述べた。

また、同サミットでは「廃プラスチックリサイクル使用技術」で第13回「日経地球環境技術賞」を受賞した当社技術総括部資源化推進グループの近藤博敏部長も受賞記念講演を行った。(26P参照)



パネリストとして講演する関沢常務

エコプロダクツ2003

12月11日(木) 12日(金) 13日(土) 10:00~17:00
東京ビッグサイト(東館中場1・2・3ホール)



当社ブースはNo.208です。
<http://eco-pro.com>

新日鉄ブースでは、リサイクル率が高く環境負荷の低い“スチール缶”と、軽くて強く耐食性に優れているため神社仏閣の屋根材として活用されている“チタン” 本年度グッドデザイン賞受賞、を展示します。



展示会・セミナーへの
入場参加は無料

(一部のシンポジウム等を除く)

ぜひお立ち寄り下さい。